

新 市 町

たかほぎ 高萩市

1. 沿 革

この市は水戸から常磐線で風光明媚な海岸地帯を北上すること約1時間、北は北茨城市、西は阿武隈の支脈を越えて福島県と久慈郡に連り、この支脈は常磐炭田地帯で、南は日立市の大工鉱業都市を控え東の太平洋には無限の海産宝庫を持ち、松岡地区の農産物、高岡地区の畜産、森林資源また周辺を取りまく渓谷、高原、海岸を背景に政治、経済文化、観光の中心地となっている。昔この地方は、高野荘と多珂荘に属し、後佐竹氏、徳川氏の所領となり、明治維新となつて茨城県に編入されたが、昭和29年11月23日に高萩町を中心に隣の松岡町、高岡村、櫛形村、黒前村の一部が合体し、市制を施行して今や面積196.98平方キロ人口32,313人(男16,089、女16,224)、世帯数6,807と急激に膨張して、今後の発展が注目される。(昭和32年8月毎月人口調査)

2. 産 業

まず農業面を見ると、農家戸数1,775、農家人口12,415人(男6,068、女6,347)、耕地面積1,219町(田823町、畑391町、樹園地5町)、山林16,772町を有しており、県内有数の森林地帯でその生産額は、用材35万石、薪13万束、木炭3万俵にのぼっているが、年を追つて原木が減少してきたことが目立っている。

次に畜産面を見ると、乳牛52頭、役牛262頭、馬1,008頭、めん羊304頭、山羊241頭、豚198頭、にわとり7,042羽を有し、山林、原野を利用した家畜の放牧が盛んである。特に高岡地区は昔から馬の産地として知られ、今でも牝馬400頭、産駒約160頭にのぼり、毎年2~3月に恒例の高萩馬市が開かれて人気を呼んでいるが、戦後採草地の不足や経済的条件の不利、農業機械の普及に伴つて馬の生産は次第に減少している由。また市としては、農道や用水路の改修、整備を促進して農業生産力の増強を計っている。この特産物のこんにやくは高岡地区から毎年15,000メ生産され大きな収入源となつており、またしいたけやとうがらしの栽培も非常に普及し、将来に大きな期待を持たれている。

次に商業面を見ると、法人および常用労働者を有する個人商店数65、従業者832名、年間販売高6億2,900万円常用労働者のいない個人商店数362、従業者694名、月間販売高3,737万円(昭和31年7月商業調査)に達しているが、食料品、衣服身廻品、洋品雑貨小売業が目立っており、炭鉱住宅を控えさらに相当繁盛するものと思われ

4. 財 政

昭和32年度一般会計歳入歳出当初予算

(単位 10)

歳入	市 税	地 方 交 付 税	使用料及 び手数料	国 庫 支 出 金	県 支 出 金	寄 付 金	繰 入 金	繰 越 金	雑 収 入	市 債	合 計			
入	68,322,730	2,650,000	2,244,640	57,893,090	1,301,550	132,250	1,418,350	2,300,000	560,700	53,007,820	184,832,260			
歳出	議会費	市役所費	消防費	土木費	教育費	社会及び 労働施設 費	保 健 産 業 衛 生 費 経 済 費	財 産 費	統 計 調 査 費	選 挙 費	公 債 費	諸 支 出 金	予 備 費	合 計
出	3,488,414	3,411,700	15,197,880	15,197,890	49,234,190	56,944,030	2,555,460	4,735,888	174,410	141,570	2,791,020	3,654,300	184,832,260	

る。また工業面を見ると、工場数75、従業者1,030名、年間製造出荷額9億9,387万円であるが、高萩パルプを以て年1月誘致して(31年産25,000トン)今後の発展が期待される。またここには高萩炭鉱と向洋炭鉱があつて、従業者は1,576名、年産24万トンにのぼつており、本市の産業生産力の向上にパルプとともに大きな役割を果している。

3. 教育文化

ここには小学校9、中学校5、高校1、各種学校3あつて、小学児童5,202名(男2,721、女2,481)、中学生2,120名(男1,073、女1,047)、高校生徒962名(男493、女464)、各種学校生徒女156名等である。市としては学校施設の統合強化を企図し、32~33年に小学校を4、中学校を3に統廃合して、その充実を計るとのこと。また公民館を中心に青年婦人団体の統合や生活改善運動、文化体育運動を進めているが、特にかまどの改善と井戸の開設は全戸数の約5割まで普及していそうである。消防団の統合も一段落を遂げて8個分団となり、消防自動車ポンプ5台、手引1台、可搬式12台、望楼1基を保有し、その事業実績はきわめて優秀で29年には全国消防団長の表彰も受けている。名所旧蹟としては親潮躍る海岸、砂丘に緑なす松林、海水浴やキャンプに好適の高萩海岸、人出数万といわれる馬市、新緑、紅葉に渓谷美満喫できる大北、花貫の両渓谷、天然記念物の八幡宮大杉、竜子城趾などがある。

小峰市長の抱負

1. 合併3年を過ぎたので2カ年計画で新庁舎を鉄骨コンクリート3階、建坪578坪、総工費5,500万円を建設して一般市民へのサービスと職員の仕事効率を向上させること。
2. 学校施設の統合強化を計つて教育内容の充実を図ること。
3. 農道の改修整備を計つて農業生産力の増強を計ること。
4. 大工場の誘致を奨励してその育成発展を計ること。
5. 新採職員および自治研修を受けていない職員に対して毎週土曜、法律、産業経済など課目をとりあげて自治研修を行い職員の知識、教養、人格の向上を計ること。
6. 納税組合を育成して市財政の確立に努めるとして4半期ごとに予算を配当してその計画的支出を行つて算の効率的使用に努めること。
7. 体育を通して市民の融和と明朗化を促進すること。

村の横顔

大宮町

1. 沿革

この町は水戸から水郡線で約40分那珂郡の中央部に位し、北は山方町、西は全砂郷村、西は那珂川を隔てて東茨城郡御前山、桂井村、南は瓜連、那珂町にそれぞれ隣接しており北部は山間地帯、中央部から南はあゆやさけで知られる久慈川と昔砂金とめのうが産出したといわれる玉川の三谷に水田が開けている昔この地方は常道六国の常陸、水戸に属して藤原氏一族の支配を受けその後平氏や江藤氏、佐竹氏、徳川氏の所領となり、斉昭時代には八田重定がおかれて藤田東湖が奉行となつて赴任したこともある。この地方も今では町村合併の機運が盛り、去る昭和30年3月31日に旧大宮町が隣りの玉川、大賀、大場、静の一部、世喜の一部と合体し、さらに同年7月1日に塩田村の一部を編入して現在面積85.18平方町、人口5,909人(男12,575、女13,424)、世帯数4,807を有する大きな町にのし上り、(昭和32年9月毎月人口調査)町立診療所、土木事務所をはじめ専売公社や農林省統計調査所の出張所、交差バス営業所、常銀支店、水戸二高分校などもあつてこの地方における産業経済、交通の中心として今後の発展が期待される。

2. 産業

まず農業面を見ると、農家戸数3,59、2農家人口19,622(男9,407、女10,213)、耕地面積2,657町(田1,189町、畑1,468町、桑園46町、その他樹園地9町)、山林2,524町を有しているが、中でも大麦426町、小麦762町、はたけ119町、大豆376町、さつまいも162町、たばこ236町が多い。(昭和32年冬期、夏期農業調査)また畜産面を見ると、乳牛58頭、役牛1,257頭、馬86頭、めん羊1,000頭、山羊458頭、豚1,142頭、にわとり18,762羽、兎487羽にたつし、畜産振興計画の推進と相まって逐年農業の増産が進んでいる。特に31年から農山漁村建設計画指定町となり、町内を2地区に分けて土地改良事業(計画区域)をはじめ、優良豚(80頭)、乳牛(24頭)、山羊(8頭)の貸付、追込舎や育雛所、集乳所の建設など行つており、養豚組合、酪農組合、養蚕組合、めん羊組合、特産品組合の育成強化によつて農業経営の合理化が着々と進んでいる。特にたばこは栽培面積が230町にのぼり、年間収入額は1億2,800万円を上回り、養蚕農家(275戸)の年間取高11,406メとともに農家の大きな収入源となつている。またおもな農機具の普及状況を見ると、石臼動力機338台、動力脱穀機342台、動力糶すり機147台、動力精米機189台、畜力砕土機345台、畑用畜力すき316

台、水田用畜力すき1,043台に達している。次に商業面を見ると、法人および常用労働者を有する個人商店数47、従業者数209名、年間販売額4億6,212万円、常用労働者を有しない個人商店数255、従業者数465名、月間販売額(6月)1,445万円に達しているが、食料品、衣服身廻品、洋品雑貨小売業が大部分である。次に工業面を見ると、工場数35、従業者数234名、年間製造出荷額1億3,670万円に過ぎない。

3. 教育文化

ここには小学校10、中学校7、高校(分)1、各種学校2、小学児童3,889名(男1,943、女1,946)、中学生徒1,886名(男981、女905)、高校生徒188名(男80、女108)、各種学校生徒女88名で、教育施設の拡充強化に努めている。特に昨年から水戸二高分校を大宮高校に昇格させてこの地方における高等教育の中心地になることも近いことだろう。また公民館は本館1、分館7を中心に青年婦人団体の活動は活発で、生活改善、冠婚葬祭の簡素化、各種講習会やリクレーションなどを実施して大きな成果を取っている。家庭用水の不便な上野、大宮地区の700戸に3,200万円の工費で簡易水道の建設を近く着手するとともに町役場の庁舎(総建坪275坪)を建築する由。また名所旧蹟としては、泉の観音種生院、東野の親鸞上人24輩第19番法専寺跡、八田郡庁跡、永田父子が二代をかけて260年頃に構築した辰の口堰、岩崎堰、小場江堰などがあるが、大宮の素鷲神社の荘厳華麗祇園祭はこの地方における恒例の名物行事として近在近郷の参拝客で非常ににぎわうようである。

一大賀町長の抱負一

1. 林道開発工事(小場大宮間幹線道路の完成)
2. 高校建設の促進(全日制大宮高校実現)
3. 土地改良事業(上野地区の水田改良工事)
4. 新農村建設計画事業の推進(簡易水道の設置)
5. 社会福祉施設の整備(町営住宅の新設)
6. 行政機構の改革(支所の廃止)
7. 教育の振興(中学校の統廃合、老朽校舎の改築)
8. 経済団体の統合(農協の併合)
9. 橋梁の整備(久慈川上大賀橋の架設)
10. 消防施設の整備(動力ポンプ購入、貯水槽の設置)
11. 衛生思想の普及(単族昆虫駆除、結核予防の徹底)
12. 庁舎建築事業(鉄筋コンクリート2階建新築)

4. 財政

昭和32年度一般会計歳入歳出予算

(単位円)

町税	地方交付税	公営企業及び財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県出支金	繰入金	繰越金	寄付金	雑収入	町債	合計			
39,597,760	25,000,000	25,475,865	446,500	7,143,712	3,438,005	100	1,820,000	750,000	2,328,058	13,000,000	119,000,000			
議会費	役場費	消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
1,773,110	35,999,398	5,240,035	6,455,580	41,000,000	6,754,322	3,092,010	11,027,839	1,626,075	237,635	90,000	950,241	5,053,755	300,000	119,000,000